

議会広報特別委員会所管事務調査報告書

本委員会に所管事務調査として、閉会中の継続調査に付託された事件について、調査の経過及び結果を次のとおり報告する。

平成16年9月7日

上富良野町議会議長 中川 一男 様

議会広報特別委員長 中村 有秀

記

1 調査の経過

議会広報特別委員会は、住民に議会活動を理解いただくための議会広報に関する発行及び調査研究のため、平成16年8月25日から8月27日まで、先進市町村である穂別町、沼田町を視察し、調査を行った。

また、北海道町村議会議長会主催の議会広報研修会に参加してきた。

2 調査の結果

先進市町村行政調査

穂別町

調査テーマ 議会広報の編集発行について

町の概要 明治19年、北海道庁設置とともに苫小牧ほか15カ村戸長役場に属し、以来分村の変遷を経て明治45年に似湾村となる。昭和4年に村名を穂別村と改称、昭和37年に町制施行により穂別町となる。

人口 3,823人(平成16年7月末現在)昭和35年の10,109人がピークで、現在の人口は大正10年代の人口になりつつある。

面積 546.48km²

産業 農業、林業、商業、観光で、基幹作物は、米・メロン・長イモ・豆類・肉用牛等である。観光は、化石のふるさととして「クビナガリュウ」を展示した博物館、視覚と五感で体験する地球体験館は年間数万人が来館する。泉源が

白亜紀の地層の化石水といわれる「樹海温泉 はくあ」も好評である。

調査の概要

- 1 創刊年月 平成11年8月(現在21号発行)
- 2 名称 議員でつくる広報誌「穂別議会だより」
- 3 発行回数 年4回(各定例議会後に発行)
- 4 発行予算 1,053千円(1頁当り14,000円)1,900部印刷

・発行に至る経過と発行の基本的方針

平成10年4月議員協議会で議会だより発行準備委員会が発足し、下記の発行の基本事項を確認。10年9月議会の試作版を作り、11年6月議会で第1号を発行。

・基本姿勢

- (1) 議員がつくる「議会だより」を、全議員共通理解の中ですすめる。
- (2) 職員に負担を負わず、議員が誰でもつくれるものを目指す。

・編集の基本方針

- (1) 町民に親しまれ、読まれるものであること。
- (2) 議会の動きや、議員の考えが町民に分かりやすいものであること。
- (3) 町民の議会への声が反映されるものであること。
- (4) 町「広報」の二番煎じにならないこと。
- (5) 議員が個人的に発行する「議会報告」は自由とする。
- (6) 必要に応じて特集を組む。報告事項のみの編集をできるだけ避ける。
- (7) 「望みは大きく、実践は堅実に」(はじめから無理をしないで、長続きできるように)を掲げ取り組んでいた。

・広聴の仕組み

- (1) 直接的には「議会だより」に、郵便料金受取人払いの制度を利用した封書を折込み、町民の声を聴く体制を取る。
- (2) 間接的には議員や議会事務局に寄せられた声を。
- (3) 広報委員会に届いた町民の声は、ボツ記事以外は本文を全議員に公表する。
- (4) 行政上の声は行政当局へ、議会運営上や編集上の声は担当部署で取扱いを検討する。

先進町村の議会広報誌から学ぶ為「地方議会人」の議会広報クリニック、「議会時報」、管内町村発行の議会広報誌を参考にしている。

・発行しながらの改善

- (1) 「穂別議会だより」の号外の発行 定例議会の日程、議案、一般質問項目(議員名は入れず)等を開会の2~3日前に号外として発行し、新聞折込みにより住民周知を図っている。

- (2) 広聴としての「郵便料金受取人払い」の折込み封書の取扱いを、当初は「議会だより」であったが、町広報と合同で行っている。
- (3) 「議会だより」に対する全議員の共通理解を進めるために、年1回の反省会を開催。
- (4) 議案審議で、議員や職員などの発言者の氏名を明示。

・今後の課題

- (1) 広聴での折込み封書での要望・意見の町民の声を、匿名と匿名希望の区別と、内容によってその取扱い。
- (2) ホ - ムペ - ジ掲示板への声の取扱い。
- (3) 町民が期待する「企画記事」への取組み。
- (4) 表紙の写真は3枚組(自然・景色)(労働・汗)(人物の表情)として町広報に依頼して来たが、自主的な取材の検討。などが上げられていた。

沼田町

調査テーマ 議会広報の編集発行について

町の概要 明治25年北海道庁令によって設置された雨竜村に属し、戸長役場は月形にあった。明治27年富山県人「沼田喜三郎」の手によって開拓の鍬が入れられた。明治32年雨竜村より北竜村として分村。大正2年北竜村より上北竜村として分村。大正11年沼田村と改称し、昭和14年1級町制施行、昭和22年町制施行、平成6年に開基100年、平成16年に開基110年を迎えた。

人口 4,150人(平成16年4月現在)昭和30年国勢調査での、3,717世帯、19,362人が平成16年4月では、1,728世帯4,150人となり、世帯数は54%減、人口は79%減となっている。

面積 283.21km²

産業 豊富な地下資源により、昭和5年に浅野・昭和両炭鉱の操業と私鉄留萌鉄道の開通により、炭鉱産業は農業と並ぶ重要な基幹産業となったが、昭和44年に石炭三山が閉山し純農村として再出発した。現在、農業生産額の多くは水稲であり、畑作の振興と肉牛の導入による複合経営も推進している。また、雪冷熱を利用した米穀低温貯留乾燥調整施設によるクリーンで安全な「雪中米」へ積極的に取り組んでいる。観光では、鉱泉を利用した「ほろしん温泉ほたる館」はリウマチ等に効果があり、「ほたるの里」として多く利用されている。また、夏の夜を彩る「夜高あんどん」は、毎年多くの観光客でにぎわう祭りに発展し、NHK連続テレビ小説「すずらん」の明日萌の里として訪れる人も多い。

調査の概要

- 1 創刊年月 平成12年4月（現在18号発行）
- 2 名称 「輝く雪」のまち ぬまた町「みんなの議会」
- 3 発行回数 年4回（各定例議会後に発行）
- 4 発行予算 850千円（1頁当たり16,500円税別）1,700部印刷

・編集基本方針

- (1) 議員の顔写真や似顔絵の掲載、記事の関連写真等は広報委員会で協議する。
- (2) 一般議案等は、内容を要約して掲載する。
- (3) 一般質問の掲載範囲は、会議録に基づき内容を要約して掲載する。
- (4) 一般質問の掲載方法は基本的に通告順。
- (5) 委員会活動は、必要に応じて掲載する。
- (6) レイアウトの際、紙面全体の変化を考慮して（読みやすい、分りやすい、親しみやすい）を基本に写真、囲み、議会用語の解説、マンガ等を掲載する。
- (7) レイアウト及び校正は、広報委員会及び議会事務局の応援にて行う。

・一般質問の議会広報原稿

- (1) 質問は1問150字前後とし、質問者が提出し答弁内容は広報委員が要約掲載する。
- (2) 質問件数が多い場合は、質問者に確認しメインのものを掲載し、他は「その他の質問」として、問・答を簡略して掲載する。
- (3) 再質問、再々質問の掲載は、広報委員会に一任する。

・今後の課題

- (1) 定例会閉会后、事務局が議事録を作成する。議事録作成後は、広報委員会が議案、一般質問、委員会関係、その他の原稿作成に取り組んでいるが、広報委員の職業が50歳代の農業経営者が5人中の4人を占め、編集校正作業の広報委員会は夜間に開催せざるを得ない。
- (2) 行財政改革の関係で、「町広報誌」と「議会広報誌」の合併を理事者が検討していたが、今回の道町村議長会コンクール入選と議会の独自性との関係から課題とされている。
- (3) 企画記事としては、特別に取り上げていないが、上富良野町議会報を参考にして、町民の目線に合った企画記事を検討課題としたい。

2 全道広報研修会

北海道町村議会議長会主催の全道議会広報研修会に参加してきた。広報プランナーの和田雅之氏による「議会報づくりの実践」と題し、講演を受けてきた。議会報は、町広報と違い、質疑の経過「なぜこう決めたのか？」などを書くもので、(審議された)(可決された)あらましを、役所用語を使わずにくどくなく、しっかりと書く事が大切である。町発行の広報誌は返本されない甘えがあるので、気を付けなくては、ひとりよがりになる。一般質問は、やり取りをしっかりと明記し、略しすぎないこと。見出しは、引き付ける一方で中立性を持つ事。他人事にしない。企画記事は、タイムリ - でみんなが知りたがっていることを書くと良い。議会報は、「教えてやる」ではなく「お知らせさせていただく」という気持ちで作るべきである。

3 まとめ

わかりやすく、読みやすく、議会と町民を結ぶ議会広報誌にするために、視覚に訴える紙面づくりという点での穂別町議会広報、沼田町議会広報と本町議会の議会広報の編集における共通点は多くあり、下記のように参考事項があった。

穂別町議会広報

- (1)「議員がつくる議会だより」のタイトルどおり大部分が議員で作っている。
- (2)定例議会開催について新聞折込での「議会だより号外」の発行。
- (3)議員全員による年1回議会広報についての反省会の開催。
- (4)答弁者氏名を、役職とフルネームで記載。
- (5)広聴について、郵便料金後払い用紙活用(町広報と併用)

沼田町議会広報

- (1)一般質問議員の顔が、写真からイラストにしている。
- (2)一般質問の問・答を囲みにして活字を大きくしている。
- (3)一般質問の「問」はゴシック・「答」は明朝と字体を変えている。
- (4)沼田町出身者の東京沼田会に町議会広報誌と町広報誌を町費で郵送している。

今後、本町議会報においても、更に町民の皆様によりわかりやすく、親しみやすい議会広報を編集発行していくために調査研究を重ねていくと共に、広報委員会が主体となって議会広報の編集に取り組み、「ものをみる目」、「伝える視点」、「各種の審議の結果に至る経過」等を充実させていく事が検討課題と考える。